

メンバー L 渡邊三稔 SL 澤田路子 井上里美

07/02 市川 6:30→9:30 出会いの丘 10:00→道迷い2時間→入渓 12:30→14:00 ホチの滝→トウの滝
→16:00 ビバーク適地

豆焼沢は奥秩父北面を代表する急峻な沢で、秀逸の美渓としても知られている。

20年以上前、まだ雁坂トンネルが開通していない頃に赤い豆焼橋の手前を降りて遡行した記憶がある懐かしい沢である。

「出会いの丘」に駐車してすぐ横のヘリポート脇から作業道を利用し、沢の下部はショートカットしてトオの滝から遡行スタートというゆとり計画のはずが・・・

はじめは踏み跡もあり、時々ある赤テープも目安にしながら歩きだすが、すぐに不明瞭となり、かなりシビアなトラバースを繰り返し、行き詰って戻ってみたり高巻いてみたりの上、あきらめて適当な箇所を選んで4ピッチほどの懸垂で川床におりる。結果道迷い何と2時間。三ちゃんリーダーは「これがあるから沢はおもしろい」と言っているが、「たしかに」と共感するには少し年をとってしまったかも。



下りて見ると意外と水量は少なく、身支度して遡行開始。ゴルジュの中にナメ、小滝が続く中、トウガク沢を右に確認し、ホチの滝は右岸ガレを巻いてその先で黄色い雁坂大橋の下を通過。てことはほとんど進んでないのか！とちょっとがっかり。この結果と道迷いのシビアなトラバースで、すでに疲れた感あり。

そんなこんなで本日の幕営地目標はトオの滝上部、午後4時遡行終了を目安に仕切り直す。奥秩父特有の苔むした岩は滑りやすく、なかなか油断ならない。ワイヤーなど工事残骸物も目にするが、前半のゴルジュは適当にへつり、高巻き、腰までつかり、時にお助けやザック引き上げなどリーダーの力強いはからいもあって順調に通過する。

先行パーティーの踏み跡もあり、煙の臭いも漂ってくる頃トオの滝が出てきて予定通りの時間にほっとする。左側のルンゼから巻き、その先の河原を本日の天場として適地を探しながらひと歩きすると、ちょっと先に先行パーティーのツェルトが見えた所で快適な天場を見つけて、行動を終了する。

三ちゃんリーダーの手際良い整地、タープ張り、たき火の火つけを学びつつ、すべてが「整いました」ところで冷やしておいたビールで乾杯。金網を出して、たき火でスルメやウインナーを焼いてつまみながらのささやかな酒宴が沢らしい。ちょっとだけ遊ばせてもらったのに釣果なく、ここに岩魚があれば完璧なんだけど。

好奇心とやる気満々の井上さんはちば山での沢泊、しかもタープ泊は初体験ということで、たき火を囲みハイテンションで話も弾む。いつしか日も暮れ、揺らめくたき火の炎に癒されながら、静かに沢の夜がふけていく。この時間が沢での至福の時。これだから沢が好きといっても過言ではない。

朝方になっても冷えることなく、暖かく快適に寝られた夜だったが、後で聞けばなるほど下界は初の熱帯夜だったらしい。

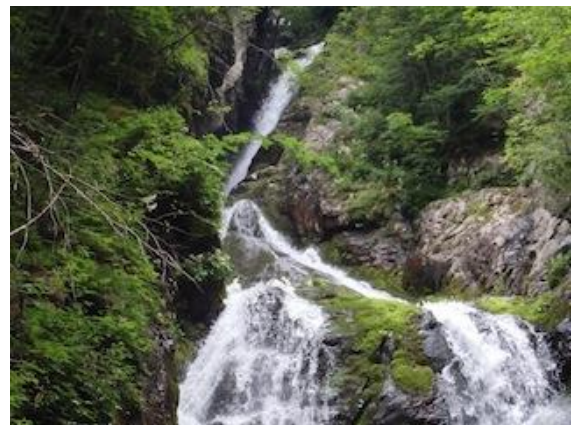


07/03 4:00 起床→出発 6:00→7:30 4段5OM大滝→9:20 スダレ状5OM→11:20 登山道
→11:30 雁坂小屋 12:00→下山 15:30 出会いの丘

4時起床、昨日の分を取り戻すべく、本日は長丁場。少し荷も軽くなったはずなのに、何か体も動きも調子が出ない。悲しいかな、やっぱり加齢か！

とはいえ上流部は豊かな原生林に中をととうと流れ落ちるナメ滝、きらめく緑の苔にしぶきを上げる連瀑帯などその自然の織りなす水の造形はまさに奥秩父の沢の魅力満載で、気持ちは弾む。

他のパーティーとも前後するようになるころ豆焼きのハイライトである堂々たる大滝に出る。当然ながめて写真撮影の後、手前の右岸ガレから明瞭な踏跡をそのすぐ上に続く2段8mの滝と合わせて、いっきにS字状に高巻く。道迷いなく順調にいけばこの大滝手前で幕営という予定だった。



その後後半のゴルジュ帯に入り滝の連続。そして豆焼のもう一つの看板である両門の滝が眼前に出現する。本流右俣50mの見事なスタレ状の滝をとる。傾斜も緩く、しぶきをあげて流れ落ちる水流の中をその美しさに見入りながら快適に登る。井上さんも感嘆の声の連発だった。



倒木だらけのちよっとうっとおしい荒れた沢筋を過ぎると最後のミニゴルジュ。連続する小滝は登れる分楽しいが、結構シャワータイムで、最後に全身びしょりになる。その先からは水量が極度に減って、本流をつめ右側の大崩壊を目安に左の枝沢をとって落石に注意しながら登山道を目指す。登山道に出て左へ10分程で雁坂小屋に到着。小屋のスタッフがいい感じで「ご苦労さま！」と声をかけてくれる。

ベンチに腰掛け、大休止ということで、沢支度から解放されてお茶タイムにほっとした後、いよいよ黒岩尾根7,8キロの下山開始。樹林の中の歩きやすい道だが、ほとんど風がなく体にねっとりまとわりつく暑さに汗だくで、さっきまでのシャワーが恋しい。古い地形図だと天狗トンネルまで歩くことになっているが、現在は途中から林道になっていて助かった。

豆焼橋に着いて欄干からあらためて全容を眺めると、ほんのちよっと先がくぐった黄色い雁坂大橋。そしてたいした水平距離のないその二つの橋の間の山の急斜面を、2時間かけてうろうろやっかいなトラバースや高巻きをしていたかと思うとしみじみ入渓の難しさを実感する。

「出会いの丘」まで最後のひと登りを終えて車へ戻ると、疲労感の分だけやった感でいっぱい。予報では不安定で雷雨の可能性もあったようだが、二日間とも沢日和の天候に恵まれたのも何よりだった。

三ちゃんリーダーとメンバーの井上さんに感謝の一言である。

その場にいた施設の職員の方に作業道の様子を聞くと、このあたりは東大演習林で作業道の先に鍾乳洞があり、あえてそこへの道を不明瞭にしたのか、かなりわかりにくくなっているとのこと。普通はわさび沢の脇の草地の急斜面を適当に下りていくし、それも踏み跡は特にないとのことだった。

帰りは、道の駅大滝温泉で汗を流した後、長瀬でおいしいおそばと“本場物”のかき氷をいただいて帰葉。